

(LD・ADHD・高機能自閉症等を含む
障害のある子どもへの支援のために)

特別支援教育コーディネーター

実践ガイド

は ・ じ ・ め ・ に

文部科学省に設置された特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議は、平成15年3月に、「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（以下「最終報告」という。）を公表しました。

この最終報告において、障害のある児童生徒の教育について「障害の程度等に応じ特別の場で指導を行う『特殊教育』から障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う『特別支援教育』への転換を図る。」と提言されました。

最終報告では、「特別支援教育」について「従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、LD・ADHD・高機能自閉症を含めて障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて、その一人一人の教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うものである。」とし、特別支援教育を支える仕組みとして、教育的支援を行う人や関係機関を連絡調整するキーパーソンである「特別支援教育コーディネーター」を置くことが提言されました。

国立特殊教育総合研究所は、この提言を受けて、プロジェクト研究「特別支援教育コーディネーターに関する実際的研究」を開始し、国内外の文献を整理するとともに、各学校や地方公共団体への調査を行ってきました。また、各地方公共団体で、特別支援教育コーディネーターの養成研修の企画・実施にあたる者を対象に研修事業を実施しました。こうした活動を通して得られた知見を整理し、特別支援教育コーディネーターの役割・機能を整理するとともに、その資質・技能と特別支援教育コーディネーター育成のための研修の在り方等について検討しました。

その研究成果を踏まえ、特別支援教育コーディネーターが活動を行うために必要な知識、活動の内容や方法、配慮事項などについて、担当する教員が使いやすいガイドブックとしてまとめたものが本書です。

また、別冊として、各地方公共団体で特別支援教育コーディネーター育成の研修を企画立案するための資料「特別支援教育コーディネーター養成研修マニュアル」を作成していますので、併せてご活用いただければ幸いです。

本書が、特別支援教育を推進する担い手である特別支援教育コーディネーターの活動と、その研修の充実に寄与できることを願っています。

ガイドブックの作成の経緯

このガイドブックは、独立行政法人国立特殊教育総合研究所が行っているプロジェクト研究「特別支援教育コーディネーターに関する実際研究」の研究活動の一環として作成されています。

このプロジェクト研究は、特別支援教育コーディネーターの役割・機能及び特別支援教育コーディネーターの資質・技能を明らかにし、特別支援教育コーディネーターの養成や研修を行うための知見を得るための開発的な研究として実施されています。

研究プロジェクトチームでは、各学校（小・中学校、盲・聾・養護学校）での特別支援教育体制の整備状況と特別支援教育コーディネーターの活動状況について調査票による調査をするとともに、特色のある学校への訪問調査を実施しました。

また、このプロジェクト研究では、「特別支援教育コーディネーター指導者養成研修」（各自治体で特別支援教育コーディネーター研修を企画運営する指導主事等を対象として5日間実施）を行うとともに、そのプロセスを通して、特別支援教育コーディネーターに関する知見を得ることができました。

これらの研究の成果の一つとしてこのガイドブックが作成されています。

特別支援教育コーディネーターの役割や実際の活動は、地域や学校、指名された特別支援教育コーディネーターの資質や技能によって様々です。一律に、全ての活動が必要であるとは言えません。

しかし、特別支援教育構想（「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」で提言）の中で、特別支援教育コーディネーターは、特別支援教育を推進するキーパーソンとして位置付けられて、その基本的な役割は、連絡調整であるとされています。校内外の関係者間を取り結び、支援を紡ぐ役割といえるでしょう。特別支援教育コーディネーターには、各学校の関係者のチームワークを形成し、また、地域の関係機関とのネットワークを形成することが求められていると言えるでしょう。

そうした視点に立って、特別支援教育コーディネーターの役割と資質・技能を検討してきました。

したがって、このガイドブックは、特別支援教育コーディネーターが各学校で取り組む校内支援体制の構築と地域の関係機関とのネットワーク作りに役立つ知見を中心に整理・記述してあります。

ガイドブックの使い方

特別支援教育コーディネーターに指名されて、最初に取り組むことは、校内支援体制作りです。また、この活動は、特別支援教育コーディネーターの中心的な役割と言えます。

このガイドブックは、特別支援教育コーディネーターの活動を進める上で、特に重要な校内での支援体制作りとそのためのチームワーク・ネットワーク作りに必要なことがらを中心に記述しています。

第1章では、特別支援教育と特別支援教育コーディネーターについて解説をしました。

第2章では、小・中学校での支援体制作りのヒントを掲載しました。

第3章では、盲・聾・養護学校での支援体制作りのヒントを掲載しました。

はじめて、特別支援教育コーディネーターに指名された方は、第1章から読み進めるといいでしょう。

また、小・中学校の特別支援教育コーディネーターの方は、第2章を中心に、盲・聾・養護学校の特別支援教育コーディネーターの方は、第3章を中心に読むといいでしょう。

資料編には、小・中学校での活動を中心に、特別支援教育で取り組む活動に必要な資料を掲載しました。

はじめに
ガイドブックの作成の経緯
ガイドブックの使い方

第1章

特別支援教育コーディネーターとは

1. 特別支援教育について ……………2
 (1) 特別支援教育について
 (2) 特別支援教育を支える仕組み
2. 特別支援教育コーディネーターについて ……………4
 (1) 盲・聾・養護学校では
 (2) 小・中学校では
3. 特別支援教育コーディネーターの役割と技能 ……………6
 (1) 特別支援教育の諸活動とコーディネーターの役割
 (2) 特別支援教育コーディネーターの活動と資質・技能

第2章

小・中学校の支援体制づくりのために

- 学校の雰囲気を取り返してみよう ……………12
- 支援体制づくりで大切なこと ……………13
1. 支援チームづくりのために ……………15
 (1) 職員間のコミュニケーションを円滑に
 (2) 学級担任との連携を
 (3) 管理職の理解と支援の下で
 (4) 保護者との協力関係を
 (5) 盲・聾・養護学校との協力関係を
 2. 特別支援教育コーディネーターの活動と資質・技能 ……………24
 ステップ1 気付きから相談の始まり（カウンセリングマインド）
 ステップ2 支援の方向を見定める（アセスメント）
 ステップ3 関係者のチームで支援を紡ぐ（ファシリテーション）

第3章

盲・聾・養護学校の支援体制づくりのために

- 盲・聾・養護学校の特別支援教育コーディネーターは ……………28
1. 校内の支援体制を作りましょう ……………29
 (1) コーディネーターの仕事を校内の教職員に理解してもらいましょう
 (2) 校内資源リストをつくりましょう

- (3) 相談しやすい体制づくりを目指しましょう
- 2. 校内の支援体制を構築するために……………32
 - (1) 担任と連携しましょう
 - (2) 校内分掌組織と連携しましょう
 - (3) 校内支援会議（「校内委員会」「ケース会議」）を開催しましょう
 - (4) 学校長への報告，連絡，相談に心がけましょう
 - (5) 校内研修会を開催しましょう
 - (6) 個別の教育支援計画を作成しましょう
- 3. 地域の小・中学校と連携しましょう……………37
 - (1) 小・中学校のニーズに応えるために
 - (2) 目立たないけど信頼感のある存在に－相互理解と信頼関係を築くために－
- 4. 地域の専門機関と連携しましょう……………39
 - (1) 盲・聾・養護学校のセンター的機能とコーディネーターの関係
 - (2) 盲・聾・養護学校のコーディネーターを中心とした校内外との関係とネットワーク
 - (3) 資源マップを作ろう

資料編

支援体制の構築と支援の実現のための資料

- 1. 障害についての知識……………44
 - (1) 視覚障害
 - (2) 聴覚障害
 - (3) 知的障害
 - (4) 肢体不自由
 - (5) 病弱・身体虚弱
 - (6) 言語障害
 - (7) 情緒障害
 - (8) LD・ADHD・高機能自閉症等
- 2. 校内の支援組織を構築するために……………53
 - 盲・聾・養護学校では ー支援組織の考え方 支援組織（例）ー
 - 小・中学校では ー支援組織の考え方 支援組織（例）ー
- 3. 特別支援教育を進めるために……………59
 - 特別支援教育年間活動計画（例）（小・中学校）
 - 校内の実態把握整理票（例）（小学校）
- 4. 個別の支援を進めるために……………61
 - 校内委員会開催計画（例）
 - 個別の実態把握シート（例）
- 5. 個人情報の保護のために……………63
- 6. より詳しく知るための参考資料……………65

